

■研究・実践の課題（テーマ）

地域包括ケアシステム構築に係る食の役割に関する研究

■主任研究者 五十里明

■共同研究者 なし

■研究・実践の目的、方法、結果、考察や提案等の概要

①背景：我が国の医療・福祉分野における最重要課題の一つである、いわゆる「西暦 2025 年問題」は、団塊の世代が全員 75 歳以上となることにより後期高齢者の急増期を迎えることである。この課題への対応・体制づくりの一環として、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けていくためには、各地域において、医療・介護・予防・住まい・生活支援サービスを切れ目なく提供する「地域包括ケアシステム」の構築に向けて様々な取組みが進められている。

②目的：本研究では、愛知県において検討が進められている「地域包括ケアシステム」の構築に向けたモデル事業の進捗状況を把握・評価し、併せて、本学管理栄養学部の学生による「在宅医療」の臨地体験を試みるとともに、地域包括ケアにおける管理栄養士の実践活動例を把握し、今後の課題について考察する。

③方法：（1）愛知県健康福祉部の企画により実施する県下 6 地区において、(1)地区医師会モデル(2)訪問看護ステーションモデル(3)医療・介護等一体提供モデル(4)認知症対応モデルとして実践されている各モデル事業の進捗状況を調査し、様々な地域特性を踏まえた各々のモデルにおける食の在り方の検討状況と課題を把握する。

（2）本学管理栄養学部「管理栄養士演習（卒業研究）」の一環として、「在宅医療の臨地実習」を実際に一日体験し、在宅医療の実際と視点、課題、管理栄養士の役割を実体験する。

（3）「在宅医療における管理栄養士の役割」に関して、地域において先駆的に実践している外部講師を招聘し、職歴を通して地域医療への参画の変遷、在宅医療における栄養指導の実践活動の現状・課題等について講演いただき、在宅医療における管理栄養士の役割を考察する。

④課題と対応

**（1） 愛知県下 6 地区のモデル事業** \*モデル市の分類（平成 26 年度～）

（愛知県主催：平成 28 年度地域包括ケアモデル事業活動成果報告会資料より引用）

(1)地区医師会モデル : 安城市、豊川市、田原市

(2)訪問看護ステーションモデル : 新城市

(3)医療・介護等一体提供モデル : 豊明市

(4)認知症対応モデル : 半田市

[(5)単年度モデル（平成 28 年度のみ） : 春日井市（団地モデル事業）

\*年次計画（平成 26 年度～28 年度） ・ 3 年目 : ・ 1, 2 年目の取組の継続

・生活支援（見守りを含む）の強化策の実施

・要介護等の高齢者の住まいの課題に対する具体策の実施

・認知症に対応した取組の充実（認知症カフェの設置等）＜認知症対応モデル＞ 等

総括：①地区医師会モデル市町村では、県下地区医師会に設置されている「在宅医療サポートセンター」

の活動が推進され、市町村との連携が今後一層推進されることが望まれる。

②6 地区のモデル事業の報告から、様々な事業の展開が認められるものの、栄養関連事業の取り組みの報告は未だ少数であり、管理栄養士の関与が一層必要であると考えられた。

## (2) 実践活動:「在宅医療の臨地実習」

平成 28 年 6 月 15 日 (水) (医療法人かがやき) 総合在宅医療クリニック 8:30~17:00

①まとめ (講師: 施設管理栄養士)

- ・生活、家族の項目においては、病院と在宅では大きく違ってくる。  
在宅では、家族に会いたい時に会うことができる。また、患者本人に役割 (草むしりがしたい、ペットに会いたい など) がある。そのため、患者さんらしい生活をおくることができる。
- ・病院と在宅の役割は大きく異なる。在宅では、治療だけではなく患者の生活を支援していく必要がある。「食べること」は生きることや喜びにつながるが、在宅では「食べること」から患者と家族の関係性や患者自身の生き様、食文化、歴史など「食べること」の“背景”を知ることができる。また、患者が亡くなった後も“背景”を知っているからこそ「グリーンケア」として遺族のサポートをしていくことができる。

## (3) 実践活動:「在宅医療における管理栄養士の役割に関する学習」

平成 28 年 9 月 29 日 14:00~16:30 於 臨床医学研究室Ⅱ (ゼミ室) 奥村圭子講師 (医療法人八事の森杉浦医院兼地域栄養ケアステーション「はらぺこスパイス」室長による講演会

### 1. 病院での管理栄養士の経験から

- ・透析病院で感じたことは透析になることで気持ちが楽になったという方が多かったこと。
- ・常に疑問を持ち、担当して実践し評価を行い、改善策を考える。「相手にとっては何が常識か?」の観点から住民に接しており、いかに医療に頼らない生活を送れるかを目標とし、併せて栄養士の活動の広がりを目指している。

### 2. 福祉施設での管理栄養士の経験から

- (1) 有料老人ホーム: 食事とリハビリの関係では、体重の変化から体力面に着目し、ヒヤリハット予防のためや食事の満足度の向上を目指すのにも栄養からの介入が重要である。
- ・誤嚥=ミキサー食と決めつけるのではなく、誤嚥を改善するための方法を様々な面から考える。
- (2) デイサービス: 帰宅後の食事の指導が重要である。むせや誤嚥が多い。

### 3. 在宅医療の現場での管理栄養士の役割と経験

- ・現在の研究テーマは「訪問栄養の実践による健康寿命の延命」のためのフレイル予防。健康都市宣言をしている大府市と津市美杉村で (含都市部と農村比較) 国のモデル事業として栄養パトロールを行っており、1 か月で 100 名以上の高齢者に会いに行っている。
- ・栄養パトロールの活動としては大府市では 16 名で 70 人を訪問。津市では 16 名で 50 人の訪問を行っている。(保健師さんと共にいる) 将来の夢や希望を聞いてそれを実現するにはどうしたらよいのかを探っていく。栄養問題を自覚してもらい、自分で解決方法を探っていくことを大切にしている。

### 4. まとめ

- ・オーダーメイド的栄養指導が重要と考えており、また「栄養指導は管理栄養士にしか実施できない」という強い意志を持ち、市町村保健師、ヘルパーステーション、精神患者の在宅支援で多くの関係職種と連携を図っている。